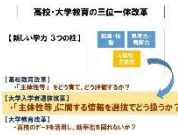

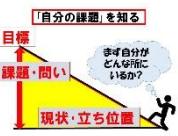


# 探究のプロセスを学ぶ

通番	区分	テーマ	ねらい・概要	スライド	使用教材
	I・II		基本的な探究の過程を身につける。 リサーチクエスチョン、一次情報、二次情報などの用語を理解する		

時間	スライド	ファシリテーション・生徒の活動・留意点など																																				
10分	<p><b>探究のプロセス</b></p>  <p><b>アドミッション・ポリシー</b> (入学要項入れ方針)</p> <p>例:北海道大学</p> <p>学習態度を重視するだけでなく、多様な活動や探究活動を通じて、大学入学後の学びに必要となる能力を育成することを重視している。また、大学入学後の学びに必要となる能力を育成することを重視している。また、大学入学後の学びに必要となる能力を育成することを重視している。</p> <p><b>大学一般選抜 評価例</b></p> <p>主体性特評価の例 札幌大学</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> <th>配点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒生活活動</td> <td>クラス役員以上</td> <td>1点</td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td>活動歴</td> <td>1点</td> </tr> <tr> <td>課外活動</td> <td>1学年以上継続</td> <td>1点</td> </tr> <tr> <td>英語関連試験</td> <td>英検2級以上</td> <td>4点</td> </tr> <tr> <td>探究活動</td> <td>課題発見・情報収集</td> <td>1.5点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>整理・分析表現</td> <td>1.5点</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>探究活動評価例</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価</th> <th>留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題設定</td> <td>探究・調査項目が立てられている</td> <td>探究・調査項目が立てられている</td> </tr> <tr> <td>情報収集</td> <td>複数の情報源から情報を収集している</td> <td>情報の信頼性を確認している</td> </tr> <tr> <td>整理分析</td> <td>収集した情報を整理・分析している</td> <td>情報の信頼性を確認している</td> </tr> <tr> <td>まとめ・表現</td> <td>まとめた内容を表現している</td> <td>まとめた内容を表現している</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>「探究」の構造</b></p>  <p><b>「自分の課題」を知る</b></p> 	項目	内容	配点	生徒生活活動	クラス役員以上	1点	ボランティア	活動歴	1点	課外活動	1学年以上継続	1点	英語関連試験	英検2級以上	4点	探究活動	課題発見・情報収集	1.5点		整理・分析表現	1.5点	項目	評価	留意点	課題設定	探究・調査項目が立てられている	探究・調査項目が立てられている	情報収集	複数の情報源から情報を収集している	情報の信頼性を確認している	整理分析	収集した情報を整理・分析している	情報の信頼性を確認している	まとめ・表現	まとめた内容を表現している	まとめた内容を表現している	<p>高校を卒業して、大学に入学してからは学習方法が全く異なる。分かっていることを教わることから、分からないことを自分で調査・研究することになる。</p> <p>大学側からも、知識だけではなく、受験生の意欲や学びに向かう姿勢も把握して評価したいと考えている</p> <p>各大学のアドミッションポリシーに合致した生徒を選抜したい</p> <p>北海道大学を例にとって、アドミッションポリシーを確認する 大学としても、単にペーパーテストの成績だけではなく、いろいろな方法で評価をしたい と考えている</p> <p>北海道内のある大学の例 一般試験においても、生徒の多様な活動を評価する仕組みが出来ている 特に「探究活動」における評価の割合が大きいことにも留意する</p> <p>探究活動についての具体的な評価規準を示す 情報収集の質や結果の表現方法、新たな問いを見つけたか、自分の変容についてもメタ認知出来ているか などについての観点を確認する</p> <p>調査や研究方法についての詳細は大学では、特に教えてもらえるわけではない。まず探究の標準的な過程を学ぶ</p> <p>課題設定、リサーチクエスチョン、仮説、情報収集、整理分析、まとめ・表現についてどのようなことに注意して行っていくか</p> <p>課題を設定するためには、自分の立ち位置と在りたい自分、望む社会のギャップから自分の問いが生まれると考えている。そのためにワークを積み重ねる</p>
項目	内容	配点																																				
生徒生活活動	クラス役員以上	1点																																				
ボランティア	活動歴	1点																																				
課外活動	1学年以上継続	1点																																				
英語関連試験	英検2級以上	4点																																				
探究活動	課題発見・情報収集	1.5点																																				
	整理・分析表現	1.5点																																				
項目	評価	留意点																																				
課題設定	探究・調査項目が立てられている	探究・調査項目が立てられている																																				
情報収集	複数の情報源から情報を収集している	情報の信頼性を確認している																																				
整理分析	収集した情報を整理・分析している	情報の信頼性を確認している																																				
まとめ・表現	まとめた内容を表現している	まとめた内容を表現している																																				

20分



「リサーチクエスト」とは？  
～研究の根拠にある問い～

「少子化」もテーマ「研究動機」とした場合  
リサーチクエスト：少子化が進んでいるのはなぜか  
研究の目的：少子化の理由を明らかにする  
研究の方向性：少子化の理由を明らかにする  
仮説：少子化の理由を明らかにする  
検証：少子化の理由を明らかにする  
結論：少子化の理由を明らかにする

「リサーチクエスト」の留意点

- 1 求められる(NEEDS)のある問いであるか
- 2 未解明の問いであるか (先行研究を徹底的に調べ)
- 3 答えが出る(検証可能)な問いであるか (研究方法、費用等の検討)

「リサーチクエスト」の7「レイダ」(分類)

- 1 問いの分解 従属の理由 従属の結果 (例：高齢化・高齢化負担 子育て支援)
- 2 時間的な研究 縦断・横断 (歴史的事象 過去・現在との比較など)
- 3 空間・場所的な研究 縦断・横断 (国内 海外 都市部 農村 大規模など)



「仮説」の条件

- 1 検証可能であること (仮説などを立てること 検証が可能に 得られた仮説の中で、検証できる)
- 2 因果関係が明示されていること (因果関係が原因で少子化 負担化が結果化に影響する可能性)

「情報収集」

二次情報	本論文	全体の骨格を知る 何がどこまで分かって 何がまだ分かっていないか
基礎情報	データ 背景	過去と現在の比較 地域間と世界間の比較 (年代別、性別別)
一次情報	実験 取材 観察	一次にしか得られない情報 研究の独自性と価値 (高学術的価値)

二次情報の収集 (先行研究・本)

データベース ライブラリー	論文、書籍、資料、データベース 資料と多くの分野の資料
サイエンス データベース	日本の学術論文、記事、雑誌の データベース
ウェブページ データベース	日本では公開される情報 言葉から整理して表を整理可能
インタビュー データベース	調べたい内容に関する単語や文 句から整理される項目を抽出

「解決する」とは？

- ・とりえず不都合のない程度に収める
- ・今より悪くならない状態を維持する
- ・影響の及ぶ方に明らかでない平等がない

自分の課題研究記録を「7レイダ」例

○○○の分野の中でも○○○はなぜ起るのか (原因) → ○○○の○○○の○○○に○○○を○○○  
○○○に○○○ (原因) があるのではないか (仮説) 七  
年五、○○○の○○○から○○○ (仮説) する  
とともに○○○で○○○について調査 (検証) した (一  
次情報)  
その結果、○○○という○○○の○○○というこ  
とがあり (上) (仮説) 原因に○○○という○○○も  
含まれた (仮説) (仮説) (仮説) (仮説) (仮説) (仮説) (仮説)  
○○○という○○○が○○○に○○○ (仮説) (仮説) (仮説) (仮説) (仮説) (仮説) (仮説)

30分

研究テーマについて、単に興味があるものだけに留まらないで、「NEED」があるもの「CAN」可能なものの重なりを意識して設定させる

「リサーチクエスト」について

どのように立てるか、どこに留意するか

場合によってはテーマやリサーチクエストが大きな場合はその構成要素を「分析」して、確実に出来るように「ブレイクダウン」することが必要になる場合がある

「仮説」について  
どのようなものか？  
仮説の良しあしで、研究の効率が大きく変化する。

仮説の条件について  
検証可能であること → 時間を限定したり、範囲を限定することで検証できるものもある  
例：ここ1か月に限定して調査すると・・・  
この町に限定して調査すると・・・

情報収集  
情報の種類がある 一次情報・二次情報などの用語を共有する  
二次情報 研究テーマ全体について、概要、何が分かっているかが分かっていないか  
一次情報 自分が実験したり調査したもの → この情報が研究の命

情報収集の方法 安易にネットの情報に頼らない → 裏付けのある文献、論文

「解決するとは？」  
すべての問題がきれいに解決することはあまりない

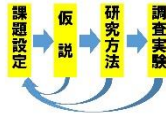
いろいろな方向で解決に近づく方策を探る

40分

自分の行う課題研究を概観する

このような文章でまとめることを想定して研究計画を立てる

調査・研究を行っていくうちに生じる新たな問いやあらたな気づきによって何回も繰り返しループしながら進んでいく



「問い」と「対話」の重要性  
問わなければ考えられず  
語らなければ形にならず  
聞かなければ語ることはできない

問うことを学ばないところでは  
考えることも学べるはずがない

「探究」とは？  
→「入力」した情報を  
「広げたり」「深めたり」して  
「出力」につなげる

追われてやるのは、義務。  
追いかけてやれば、夢。  
やることは同じでも、  
考え次第で苦勞にも楽し  
しみにも変えられる。

「思考の質」は  
「問いの質」によって決まる

「思考」の動機と力は  
「自分の問い」であるか  
どうかで決まる

自分は何に惹かれ、何に興味があり、自分の中心にあるものは何か？  
自分のことを良く知ることによって自分の「問い」が生まれる

新たな気づきによって自分の枠を広げていく「探究的な学び」を身につけると最初は持っている知識や技能は少ないけれど、時間が経つにつれてどんどん拡大していく

それに対して、教師から知識を受け取る受動的な学びでは、最初に効率よく多くの知識を得ることができるが、自分から広げることが出来ないため、時間が経つにつれて先細りする。

問うことの重要性を理解する

探究とは「入力」した情報を拡大・収束しながら「出力」につなげる

自ら主体的に動く意味を理解する

「考える」ためには自分の問いが必要。自分の問いがなければ、考えることはできない。与えられた問題を解くのは考えさせられているだけで、自分でかんがえているわけではない。

与えられた問題に答える力は「考えさせられる力」  
「自分の問い」がなければ「考える力」を育てていくことはできない  
学校は「考えないこと」を教えている

考えを言語化したり、他者に語ることで自分にとって「明確なもの」になる

「受け入れる」ではなく「受け止める」  
「理解する」ではなく「受け止める」  
聞く一場を共有し存在を受け止める

これまでの授業「自分の考え」は言わなくても良い  
一言って良いのは「正解」授業の意図に沿うこと

俺とおまえは意見が違うだからお互いに存在価値があるんだ。

言語化して、他者と語ることで自分が明確になる

他者との語りがないければ、自分だけでは何も理解できない

正答も誤答もないという観点では、これまでの授業とは異なる点に留意する

多様であることの意義を学ぶ

振り返ってみると、この世の中に「絶対的な正解」など存在しないのではないかという感覚が身に付く

→ すべての事象や意味は、ある条件やある関係の中のみで成り立つこと

「同じ」であることと「違う」ことの意味をあらためて考えてみる